

3年2組 英語科「A Legacy for Peace」

授業者：八木 一真 ICT支援員：小澤 貴俊、齋藤 雄心 場 所：学習室3

1 単元を通じた授業デザイン

本校英語科では、協働して学び合いながら、思考を深め表現できる生徒を育成するために、単元や授業の中で、繰り返し言語活動に取り組むようにしている。その際には ICT を日常的に活用し、アウトプットと振り返りを往還することで、生徒は深い学びを実現している。

本単元では、本文や動画を通じて世界の偉人たちの生き方について学ぶ。それをもとに、クラスメートや東京都の交流学級の仲間に、自分の尊敬する人物のエピソード、これからの生き方、仲間へのメッセージを伝えることができるように、話すことの領域を向上させる。

2 単元における ICT 活用のポイント

端末のカメラ機能を使ってプレゼンテーションや即興のコメントを動画で撮影し、振り返りを行うことで、発表の質を高めていく。また、協働学習支援ツールのクラウド機能を有効活用し、交流学級と動画やコメントを共有することで、学びの質や意欲を高め、真のコミュニケーション活動を実現していく。

3 本時における情報活用能力との関連

「探求スキル」（メディアを組み合わせる） B5:表現の工夫

4 情報活用能力の育成のための手立て

クラウド上に送られてきた、交流学級の仲間の発表動画を視聴することで、よい発表のポイントを学ぶ。それをもとに、自分の発表を見直すことで、改善点を洗い出し、質の高い最終動画を交流学級の仲間に送ることができるようにする。

5 本時のねらい

「私の尊敬する人物」についてのエピソードやこれからの自分の生き方やメッセージを、よい発表のポイントを踏まえながら伝えることができる。

6 学習過程と ICT の活用（10 / 13 時）

学習活動	○ 教師の支援 ■ ICT の活用 ※評価
1 本時の課題を把握する (1) 交流学級の仲間の発表について紹介する (2) モデル発表を視聴する。 (3) よい発表のポイントを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 最終動画の撮影に向けて、発表の質を高めることができる。 </div>	■ 協働支援ツールで共有した動画をあらかじめ視聴しておく、その内容をクラスの仲間にレポートするよう指示する。 ■ 交流学級の代表生徒の発表を電子黒板で視聴させる。 ○ 発表の修正ポイントや相互評価のポイントの確認を促す。
2 本時の課題を解決する。 (1) 発表の練習をする。 (2) ペアで発表を行う。 (3) ペアで振り返りを行う。 (4) 代表者発表を行う。 (5) 再度ペアで発表を行う。	■ クロムブックを使って撮影を行い、撮影後に動画を見返して改善点を話し合わせる。 ○ よいモデルを見て、さらに改善点があるか確認させる。 ※ 3つの評価ポイントをふまえて発表を行っている。(観察) ■ 再度クロムブックを使って撮影を行わせる。
3 本時のまとめと振り返りを行う。 (1) ノートに振り返りを書く。	○ 撮影した動画を、家庭での発表練習に結びつけるように促す。

〈 本時で利用している ICT 機器・ソフトウェア等 〉

液晶型電子黒板、タブレット端末（教師用 iPad）、アンドロイド端末（生徒用 Chromebook）、協働学習支援ツール(ロイロノート)